



# クラウドマネージャ Cloud Manager

NetApp  
April 08, 2021

This PDF was generated from [https://docs.netapp.com/us-en/occm/reference\\_new\\_occm.html](https://docs.netapp.com/us-en/occm/reference_new_occm.html) on April 08, 2021. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次

クラウドマネージャ .....	1
Cloud Manager 3.9 の新機能 .....	1
Cloud Manager を SaaS に移行 .....	18
既知の問題 .....	22
既知の制限 .....	23

# クラウドマネージャ

## Cloud Manager 3.9 の新機能

通常、Cloud Manager では毎月新しいリリースが導入され、新機能、拡張機能、およびバグ修正が提供されます。



以前のリリースをお探しですか？["3.8 の新機能"](#)  
["3.7 の新機能"](#)

### Cloud Manager 3.9.4 の更新（2021 年 4 月 8 日）

#### Active IQ の機能拡張

- Cloud Volumes ONTAP がアカウント内に使用していない Active IQ ライセンスを検出した場合は、ボタンをクリックして、ライセンスを使用して新しい Cloud Volumes ONTAP システムを作成できます。または、既存の Cloud Volumes ONTAP システムにライセンスを適用して、そのライセンスの容量を 368 TB 拡張できます。

を参照してください ["利用可能なライセンスの使用方法"](#)。

### Cloud Manager 3.9.4 の更新（2021 年 3 月 15 日）

#### Cloud Compliance の機能拡張

- 新しい ["ガバナンスダッシュボード"](#) を使用できるようになりました。これにより、組織のストレージリソース上のデータに関連する効率性が向上し、コストを制御できます。

たとえば、ダッシュボードは、古いデータ、ビジネス以外のデータ、およびシステム内の大容量ファイルを特定するため、一部のファイルを低コストのオブジェクトストレージに移動、削除、階層化するかどうかを判断できます。

- のリストを表示できます ["ファイルへのアクセス権を持つすべてのユーザまたはグループ"](#)。
- AWS の政府機関では、Cloud Compliance がサポートされるようになりました。

### Cloud Manager 3.9.4（2021 年 3 月 8 日）

- [\[Cloud Volumes ONTAP enhancements\]](#)
- [\[Connector enhancements\]](#)
- [\[Cloud Sync enhancements\]](#)
- [\[Cloud Tiering enhancements\]](#)
- [\[Active IQ enhancements\]](#)
- [\[ANF enhancements\]](#)

## Cloud Volumes ONTAP の機能拡張

このリリースの Cloud Manager では、Cloud Volumes ONTAP の管理が強化されています。

すべてのクラウドプロバイダで利用できる機能強化

Cloud Volumes ONTAP 9.9.9..0 を導入および管理できるようになりました。

["このリリースのに含まれる新機能について説明します Cloud Volumes ONTAP"](#)。

### AWS で利用できる機能拡張

- クラウドサービス 9.8 を AWS Commercial Cloud Volumes ONTAP （ C2S ） 環境に導入できるようになりました。

["C2S の使用を開始する方法をご確認ください"](#)。

- Cloud Manager では、AWS Key Management Service （ KMS ） を使用して Cloud Volumes ONTAP データを暗号化できるようになりました。Cloud Volumes ONTAP 9.9.9..0 以降では、お客様が管理する CMK を選択すると、EBS ディスク上のデータと S3 に階層化されたデータが暗号化されます。これまでは、EBS データだけが暗号化されていました。

Cloud Volumes ONTAP IAM ロールに CMK を使用するためのアクセス権を付与する必要があります。

["Cloud で AWS KMS を設定する方法については、こちらをご覧ください Volume ONTAP の略"](#)。

### Azure で利用できる機能拡張

Cloud Volumes ONTAP 9.8 を、国防総省（ DoD ）の影響レベル 6 （ IL6 ） に導入できるようになりました。

### Google Cloud で利用可能な機能強化

- Google Cloud で Cloud Volumes ONTAP 9.8 以降に必要な IP アドレスの数が削減されました。デフォルトでは、IP アドレスを 1 つ減らす必要があります（インタークラスタ LIF をノード管理 LIF と統合しました）。また、API を使用する場合は SVM 管理 LIF の作成を省略でき、追加の IP アドレスが不要になります。

["Google Cloud の IP アドレス要件の詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

- Google Cloud で Cloud Volumes ONTAP HA ペアを導入する際に、VPC -1 、 VPC -2 、および VPC -3 の共有 VPC を選択できるようになりました。以前は、VPC を共有できるのは VPC のみでした。この変更は Cloud Volumes ONTAP 9.8 以降でサポートされています。

["Google Cloud のネットワーク要件の詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

### コネクタの機能拡張

- Connector が実行されていない場合に、Cloud Manager から管理者ユーザに E メールで通知されるようになりました。

コネクタを常時稼働させておくと、Cloud Volumes ONTAP やその他の NetApp クラウドサービスを最大限に管理するのに役立ちます。

- コネクタのインスタンスタイプを変更する必要がある場合に、Cloud Manager に通知が表示されるようになりました。

インスタンスタイプを変更することで、現在利用できない新しい機能を確実に使用できます。 ["マシンタイプの変更の詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

### Cloud Sync の機能拡張

- Cloud Sync で ONTAP S3 ストレージと SMB サーバの同期関係がサポートされるようになりました。
  - ONTAP S3 ストレージから SMB サーバへの移動
  - SMB サーバから ONTAP S3 ストレージ

["サポートされている同期関係を表示する"](#)。

- Cloud Sync では、ユーザインターフェイスからデータブロッカーグループの設定を直接統合できるようになりました。

自分で設定を変更することはお勧めしません。設定を変更するタイミングと変更方法については、ネットアップに相談してください。

["ユニファイド構成の定義に関する詳細は、こちらをご覧ください"](#)。

### Cloud Tiering の機能拡張

- Google Cloud Storage に階層化する場合は、ライフサイクルルールを適用して、階層化されたデータを Standard ストレージクラスから 30 日後に低コストの Nearline、Coldline、または Archive ストレージに移行することができます。
- Cloud Tiering Now は、オンプレミスの ONTAP クラスタで検出されていないものがある場合に表示されます。これにより、クラスタへの階層化やその他のサービスを有効にすることができます。

["これらのクラスタの詳細については、こちらをご覧ください"](#)。

### Active IQ の機能拡張

- Active IQ が（NSS アカウントに基づいて）オンプレミスクラスタのリストを表示したら、ボタンをクリックして切り替えることができます ["クラスタを検出"](#) Cloud Manager キャンバスに追加します。これにより、すべてのストレージシステムを Cloud Manager で簡単に管理できるようになります。
- 1 つ以上のクラスタでファームウェアの更新が必要であると Active IQ が判断したら、ボタンをクリックして、を選択します ["Ansible プレイブックをダウンロードし、クラスタファームウェアをアップグレードします"](#)。
- 新しい ["クラウド対応ワークロードタブ"](#) オンプレミスの ONTAP クラスタからクラウドに移行するのに最適と特定したワークロードまたはボリュームのリストが表示されます。これらのボリュームの一部を移動すると、コストが削減され、パフォーマンスと耐障害性が向上する可能性があります。

を参照してください ["リフトとシフトとは何ですか？"](#)

## ANF の機能拡張

- ワークロードのニーズを満たし、コストを最適化するために、ボリュームのサービスレベルを動的に変更できるようになりました。ボリュームは、ボリュームに影響を及ぼすことなく、もう一方の容量プールに移動されます。 ["詳細はこちら。"](#)

## Cloud Manager 3.9.3 アップデート（2021 年 2 月 16 日）

### Cloud Backup Service の機能拡張

- Amazon S3 、 Azure Blob 、 Google Cloud Storage にあるバックアップファイルからオンプレミスの ONTAP システムにボリュームをリストアできるようになりました。
- リストアしたすべてのボリュームとファイルの詳細が表示される新しいリストアダッシュボードが追加されました。

また、ダッシュボードは、ボリュームとファイルのすべてのリストア処理を実行する際の最初の画面でもあります。を参照してください ["リストアダッシュボード"](#) を参照してください。以前のリリースでは、リストアボリュームオプションはバックアップダッシュボードに含まれていました。

- Google Cloud の Cloud Volumes ONTAP HA システムで Cloud Backup がサポートされるようになりました。

## Cloud Manager 3.9.3 アップデート（2021 年 2 月 14 日）

### Cloud Compliance の機能拡張

- スキャンするファイルの Azure Information Protection （ AIP ） ラベルを表示および管理します。
  - AIP ラベル機能を Cloud Compliance に統合すると、ファイルに割り当てられているラベルを表示したり、ファイルにラベルを追加したり、ラベルを変更したりできます。を参照してください ["AIP ラベルを統合する方法"](#) をワークスペースに配置します。
  - ファイルにラベルを個別に割り当てるか、またはのハイライト機能を使用します ["ハイライト条件に一致するすべてのファイルにラベルを追加します"](#)。ハイライトでは、 Cloud Compliance がファイル内で一致する項目を検出すると、ラベルは継続的に更新されます。
  - ラベルに一致するすべてのファイルを表示するには、 [ 調査 ] ページのデータを AIP ラベルでフィルタリングします。
- Cloud Manager ユーザ（日次、週次、または月単位）に、ハイライト結果が返されたら E メールアラートを送信して、データを保護する通知を受け取ることができます。

このオプションは、で選択します ["任意の高輝度表示を作成または編集します"](#)。

- ファイルの所有者と権限の情報を表示するタイミング ["個々のファイルの詳細を表示します"](#)。

この条件を使用して、 [ 調査 ] ページでデータをさらにフィルタリングすることもできます。

- Cloud Compliance からファイルを直接削除します。

可能です ["ファイルを完全に削除します"](#) 安全性が低い、ストレージシステムに残すのにリスクが高いようです。

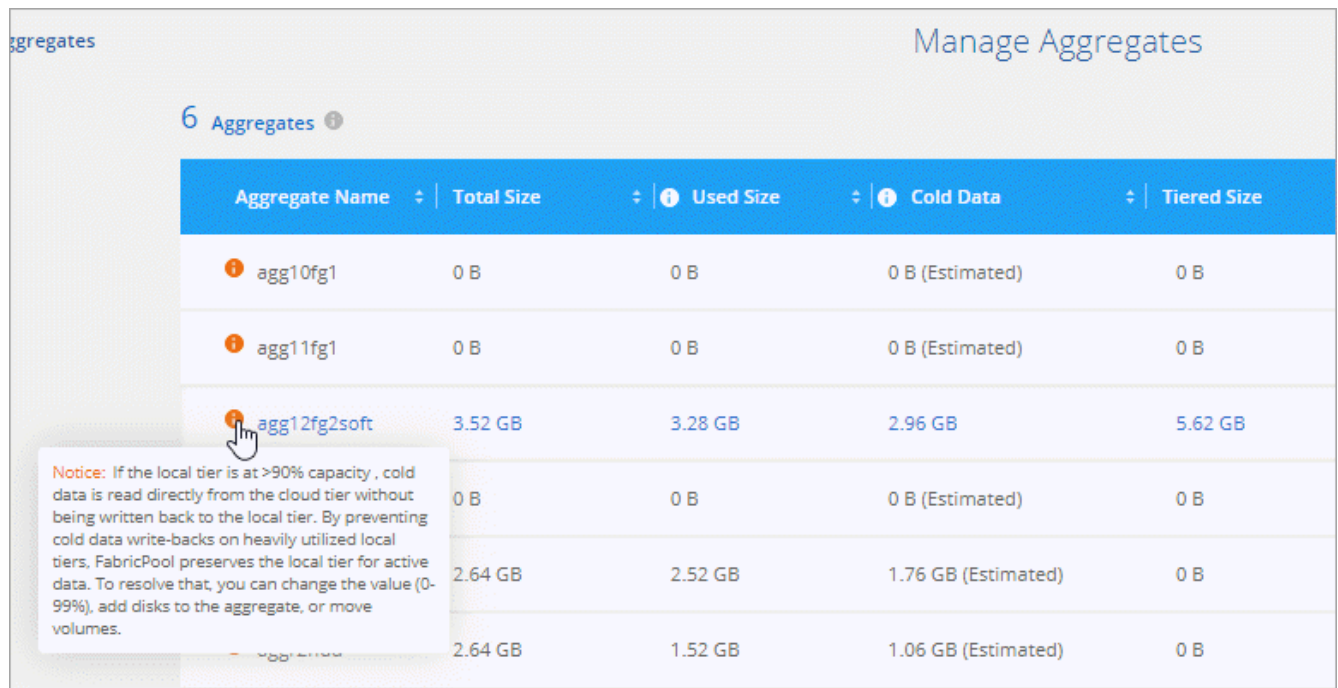
## Cloud Manager 3.9.3 アップデート（2021 年 2 月 10 日）

- [\[Cloud Tiering enhancements\]](#)
- [\[Cloud Sync enhancements\]](#)

### Cloud Tiering の機能拡張

- アグリゲートの容量が 90% を超えたとき（ONTAP 9.6 以前の場合は 70%）にクラウド階層化によってクラスタのライトバック防止がアクティブになるようになりました。頻繁に使用されるローカル階層でのコールドデータの書き戻しを防止することで、Cloud Tiering は、アクティブデータのローカル階層を維持します。

この場合、Manage Aggregates テーブルに情報が表示されます。



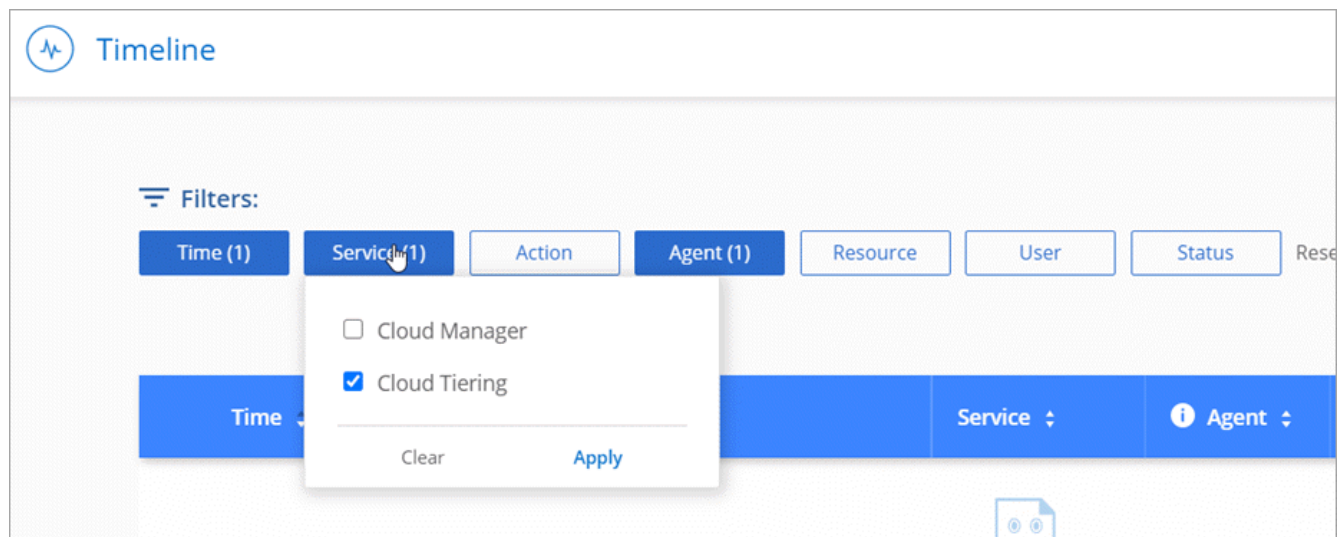
Manage Aggregates				
6 Aggregates ⓘ				
Aggregate Name	Total Size	Used Size	Cold Data	Tiered Size
agg10fg1	0 B	0 B	0 B (Estimated)	0 B
agg11fg1	0 B	0 B	0 B (Estimated)	0 B
agg12fg2soft	3.52 GB	3.28 GB	2.96 GB	5.62 GB
	0 B	0 B	0 B (Estimated)	0 B
	2.64 GB	2.52 GB	1.76 GB (Estimated)	0 B
	2.64 GB	1.52 GB	1.06 GB (Estimated)	0 B

**Notice:** If the local tier is at >90% capacity, cold data is read directly from the cloud tier without being written back to the local tier. By preventing cold data write-backs on heavily utilized local tiers, FabricPool preserves the local tier for active data. To resolve that, you can change the value (0-99%), add disks to the aggregate, or move volumes.

- オンプレミスの ONTAP クラスタをクラウド階層化サービスから簡単に追加できるようになりました。

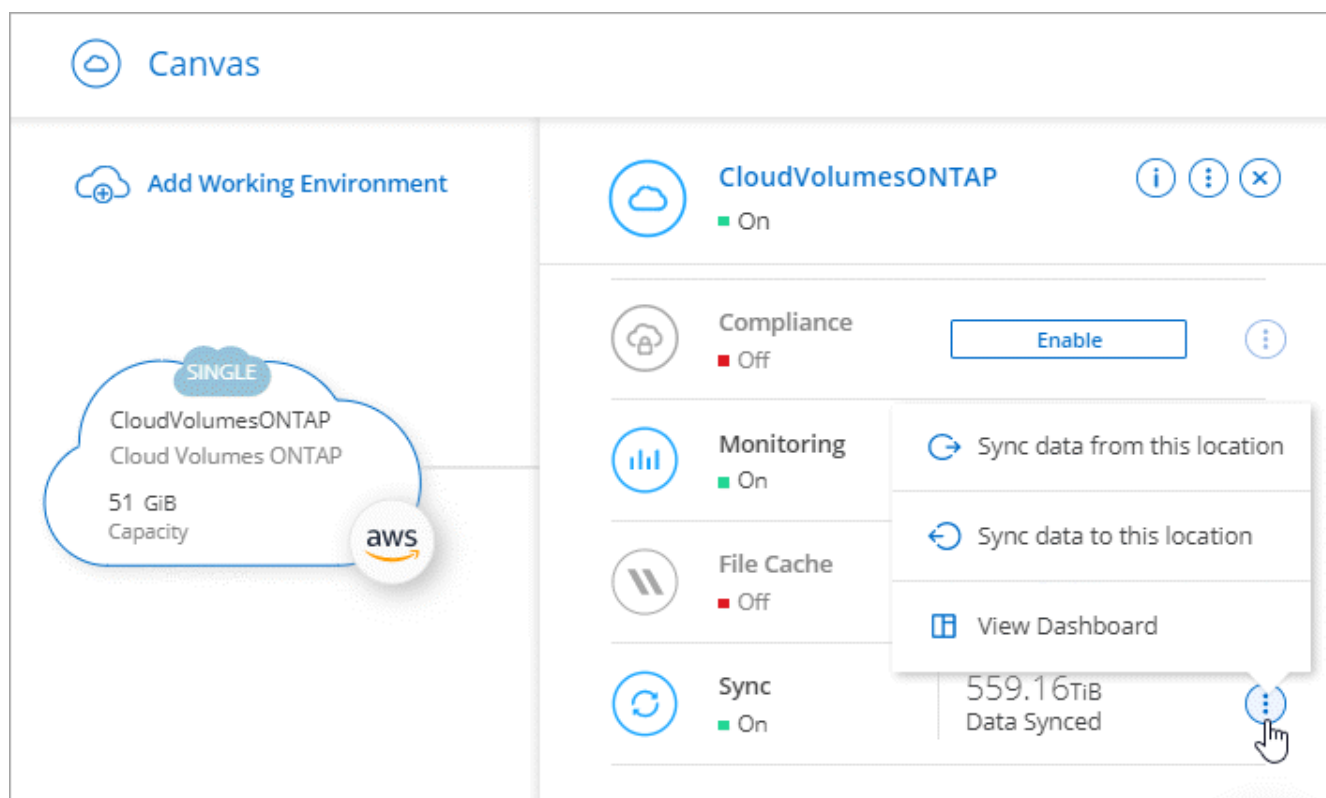
Cloud Tiering ページで \* Add cluster \* をクリックすると、\* Add Working Environment \* ウィザードに直接送信されるようになりました。

- タイムラインをフィルタして、クラウド階層化サービスに固有のアクションを表示できるようになりました。



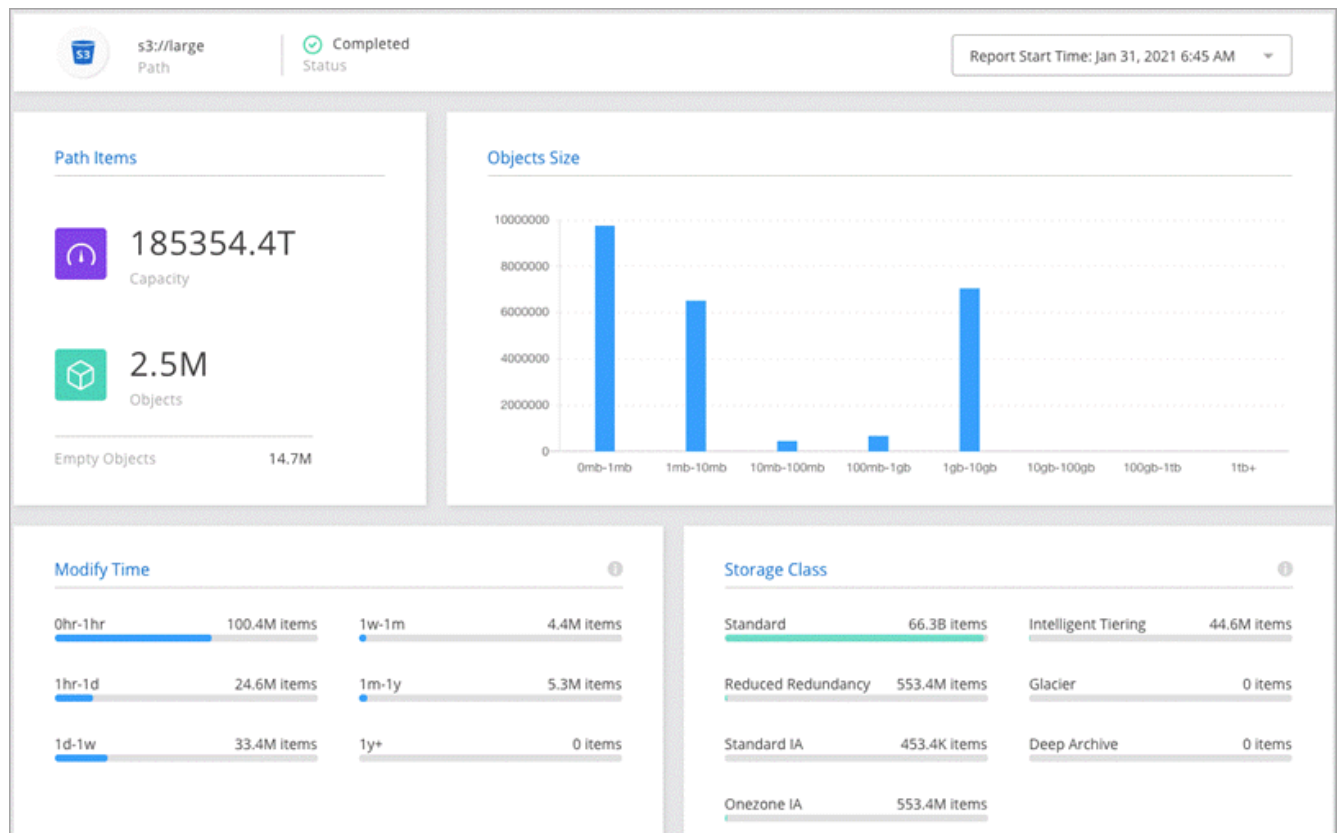
## Cloud Sync の機能拡張

- Cloud Volumes ONTAP との間でデータを同期するプロセスが簡素化されました。Cloud Volumes ONTAP 作業環境を選択し、この作業環境との間でデータを同期するオプションを選択できるようになりました。



- 前回のリリースでは、ネットアップの担当者がデータブローカーの設定を調整し、パフォーマンスを向上させるために役立つ情報を提供するレポート機能が新たに導入されています。これらのレポートは、オブジェクトストレージでサポートされるようになりました。





## Cloud Manager 3.9.3（2021年2月9日）

- [\[Monitoring enhancements\]](#)
- [\[Support improvements\]](#)

### 監視機能の拡張

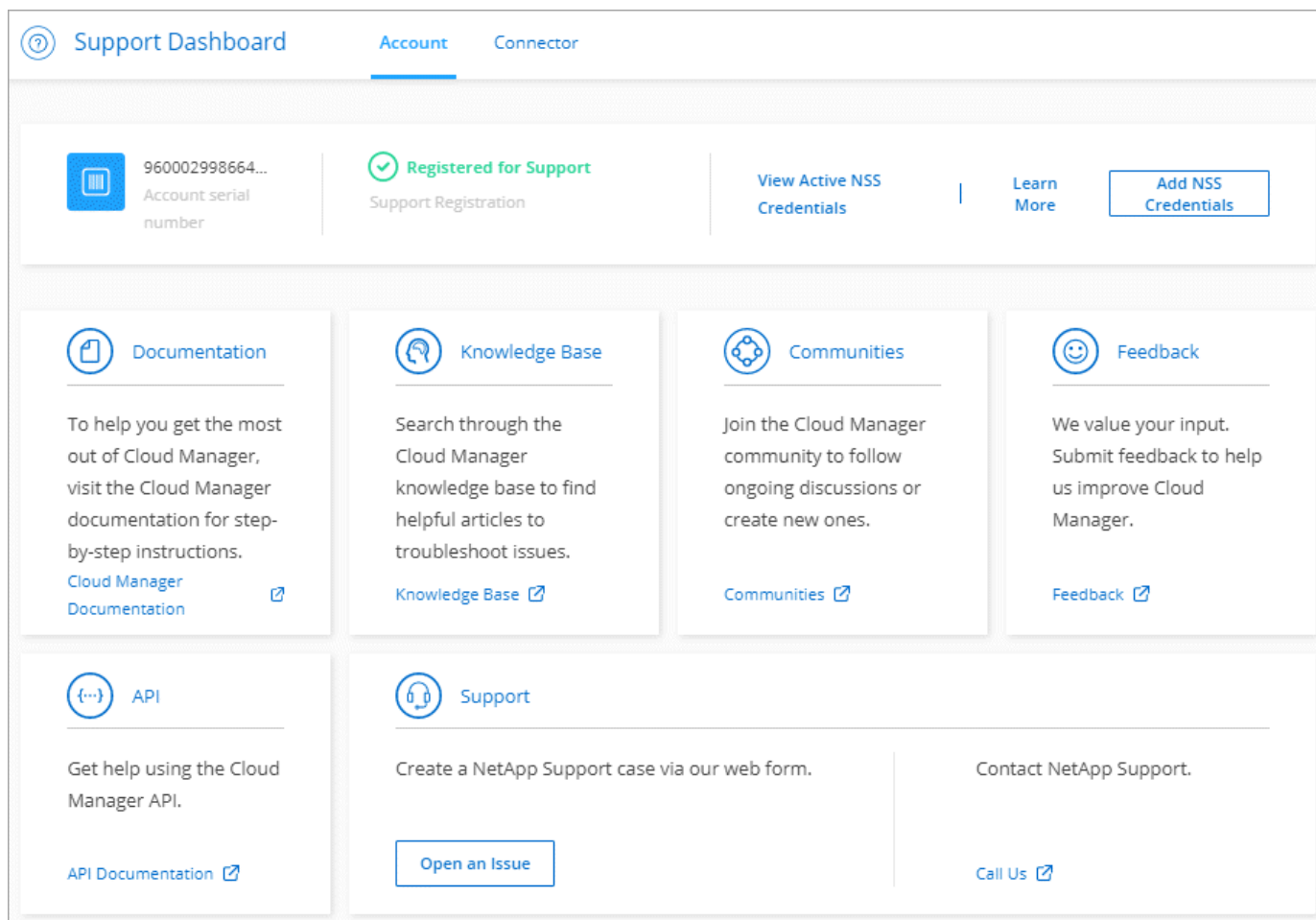
- Cloud Volumes ONTAP for Azure で監視サービスがサポートされるようになりました。
- 監視サービスは、AWS および Azure の政府機関のリージョンでもサポートされます。

監視サービスを使用すると、Cloud Volumes ONTAP インフラを完全に可視化できます。サービスを有効にして、Cloud Volumes ONTAP リソースを監視、トラブルシューティングし、最適化します。

"監視サービスの詳細については、[こちらをご覧ください](#)。"

### サポートの強化

サポートダッシュボードが更新され、ネットアップサポートサイトのクレデンシャルを追加できるようになりました。このクレデンシャルをサポートに登録してください。ネットアップサポートケースは、ダッシュボードから直接開始することもできます。[ヘルプ] アイコンをクリックして、**[Support]** をクリックします。



## Cloud Manager 3.9.2 アップデート（2021 年 1 月 11 日）

- [\[Cloud Compliance enhancements\]](#)
- [\[Cloud Backup enhancements\]](#)

### Cloud Compliance の機能拡張

- Microsoft OneDrive アカウントのスキャンがサポートされるようになりました。

これで、すべての OneDrive ユーザーからフォルダーとファイルをスキャンするために、会社の OneDrive アカウントを Cloud Compliance に追加できます。を参照してください ["OneDrive アカウントをスキャンしています"](#) を参照してください。

- 「ハイライト」機能では、組織固有の検索結果を提供する独自のカスタムハイライトを作成できるようになりました。

前回のリリースでは、Cloud Compliance により、すべてのユーザが使用できる一連の定義済みの高輝度表示フィルタが提供されていました。独自のハイライトを作成して、[ 調査 ] ページで特定のスキャン結果を返すことができます。方法を参照してください ["独自の高輝度表示を作成します"](#)。

- オンプレミスの ONTAP システムからバックアップファイルを無料でスキャンできます。

Cloud Compliance でオンプレミスの ONTAP システム上のボリュームを直接スキャンしない場合は、今月リリースされた新しいベータ機能を使用して、オンプレミスの ONTAP ボリュームから作成されたバック

アップファイルでコンプライアンススキャンを実行できます。オンプレミス ONTAP のバックアップを作成済みの場合も同様です。使用しています ["クラウドバックアップ"](#)この新機能を使用して、これらのバックアップファイルに対して **\* 無料 \*** のコンプライアンススキャンを実行できます。

方法を参照してください ["オンプレミスの ONTAP ボリュームをオブジェクトストレージにバックアップ"](#)そしていかにできるか ["これらのバックアップファイルをスキャンします"](#)。

- Cloud Compliance は、個人データ型「IP アドレス」をファイルで検索できるようになりました。すべてのリストを表示します ["個人データの種類"](#) その Cloud Compliance がスキャンで見つかりました。

## Cloud Backup の機能拡張

個々のファイルを追加のデスティネーション作業環境にリストアできます。

- Azure Blob のバックアップファイルは、Azure にインストールされた Cloud Volumes ONTAP システムやオンプレミスの ONTAP システムに個々のファイルをリストアするために使用できます。
- Amazon S3 のバックアップファイルを使用して、個々のファイルをオンプレミスの ONTAP システムにリストアできます（AWS にインストールされた Cloud Volumes ONTAP システムへのファイルのリストアはすでにサポートされています）。

を表示します ["バックアップとリストアのマトリックス"](#) バックアップの作成、ボリュームのリストア、およびファイルのリストアがサポートされている作業環境を確認します。

## Cloud Manager 3.9.2 （2021 年 1 月 4 日）

- [\[Cloud Volumes ONTAP enhancements\]](#)
- [\[Cloud Tiering enhancements\]](#)
- [\[General enhancements\]](#)

## Cloud Volumes ONTAP の機能拡張

このリリースの Cloud Manager では、Cloud Volumes ONTAP に関して次の機能拡張が導入されています。

### AWS のアウトポストのサポート

数カ月前に、Cloud Volumes ONTAP が Amazon Web Services （AWS）の提供開始を宣言したことを発表しました。本日は、AWS のアウトポストで Cloud Manager と Cloud Volumes ONTAP を検証しました。

AWS Outpost を使用している場合は、Working Environment ウィザードで Outpost VPC を選択して、その Outpost に Cloud Volumes ONTAP を導入できます。エクスペリエンスは、AWS に存在する他の VPC と同じです。最初に、AWS Outpost にコネクタを導入する必要があります。

指摘すべき制限事項はいくつかあります。

- でサポートされるのはシングルノードの Cloud Volumes ONTAP システムのみです。今回は
- Cloud Volumes で使用できる EC2 インスタンス ONTAP は、Outpost で利用できる機能に限定されています
- 現時点では、汎用 SSD （gp2）のみがサポートされます

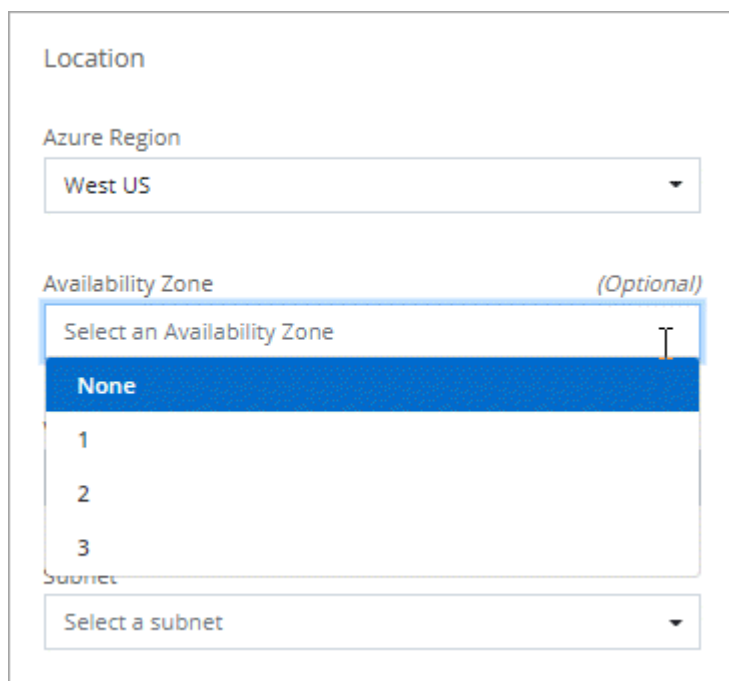
サポートされているすべての **Azure** リージョンで **Ultra SSD VNV RAM** がサポートされます

Cloud Volumes ONTAP では、Ultra SSD をとして使用できるようになりました VNV RAM （ E32s\_v3 VM タイプをで使用する場合） シングルノードシステム "[サポートされる任意の Azure リージョン](#)".

VNV RAM により、書き込みパフォーマンスが向上します。

**Azure** でアベイラビリティゾーンを選択できます

これで、シングルノードの Cloud Volumes ONTAP システムを導入するアベイラビリティゾーンを選択できます。AZ を選択しない場合は、Cloud Manager によってその AZ が選択されます。



**GCP** での大容量ディスクと新しいインスタンスのサポート

- Cloud Volumes ONTAP は GCP で 64 TB のディスクをサポートするようになりました。

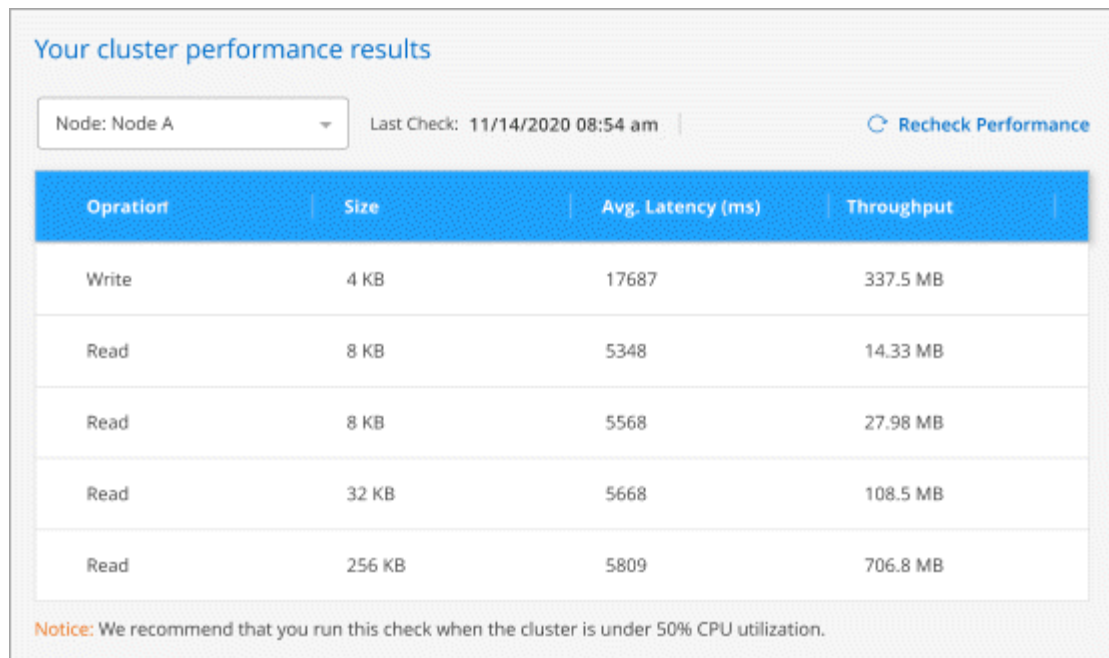


GCP の制限により、ディスクのみの場合の最大システム容量は 256 TB のままです。

- Cloud Volumes ONTAP では、次のマシンタイプがサポートされるようになりました
  - N2 - 標準 -4 （ Explore ライセンスを含む、BYOL を含む）
  - 標準ライセンスを使用し、BYOL を使用した N2-standard-8
  - N2 - Standard - 32 （ Premium ライセンスを使用、BYOL を使用）

**Cloud Tiering** の機能拡張

- 新しいクラウドパフォーマンステストでは、データ階層化の設定前後に、ONTAP クラスタからオブジェクトストアにネットワークのレイテンシとスループットのパフォーマンスを測定できます。

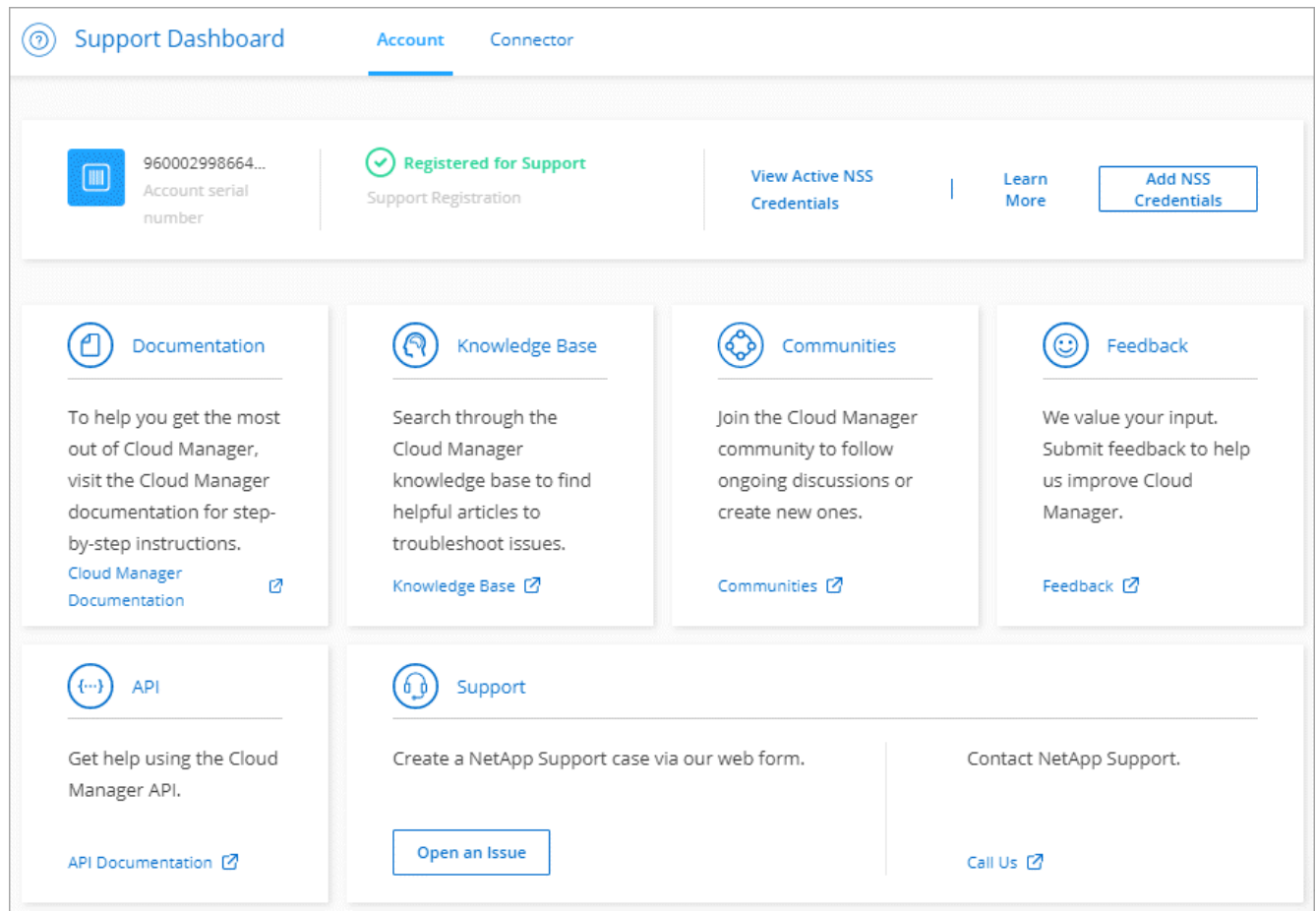


- ・ 階層化セットアップウィザードの設計が見直され、使いやすくなりました。

#### その他の機能強化

- ・ 新しいサポートダッシュボード

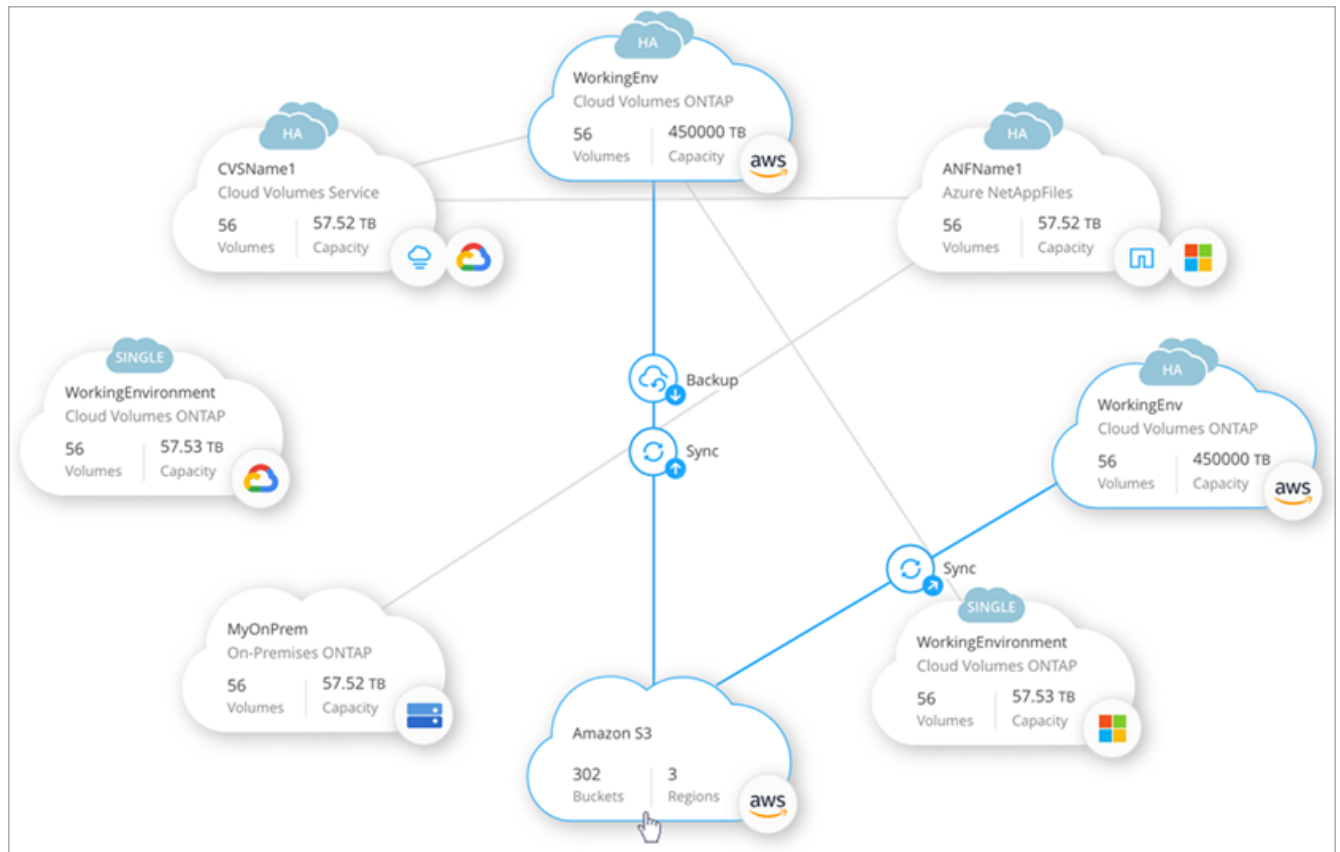
新しいサポートダッシュボードのヘルプメニューには、サポートへのリンクや、フィードバックの送信、ネットアップサポートへのお問い合わせなどに利用できるリソースが用意されています。また、[\* Connector AutoSupport \*] タブから AutoSupport メッセージを送信およびダウンロードすることもできます。



- 作業環境間の視覚的な表示

Cloud Manager を使用すると、作業環境で有効になっているサービス間の関係を簡単に確認できます。

たとえば、次の図は、Cloud Volumes ONTAP から Amazon S3 にデータをバックアップし、Amazon S3 と 2 つの Cloud Volumes ONTAP システム間でデータを同期する 2 つの作業環境の例を示しています。



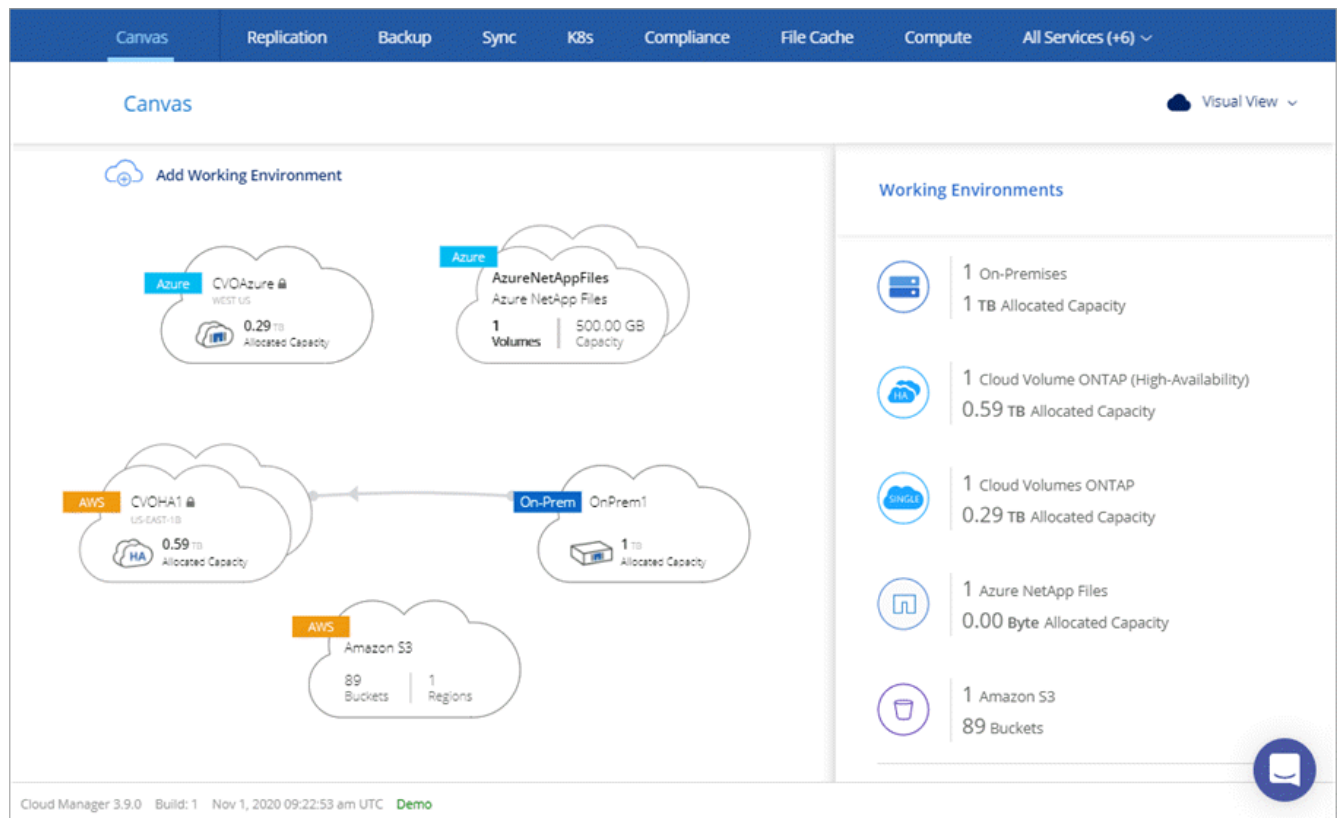
## Cloud Manager 3.9.1 （ 2020 年 12 月 7 日）

- [\[General enhancements\]](#)
- [\[Cloud Volumes ONTAP AMI change\]](#)
- [\[Cloud Backup enhancements\]](#)
- [\[Cloud Compliance enhancements\]](#)
- [\[Cloud Tiering enhancements\]](#)
- [\[Cloud Sync enhancements\]](#)

### 一般的な機能強化

- 「 \* 作業環境 \* 」タブの名前を「 \* キャンバス \* 」に変更しました。

このタブは空白のキャンバスから始まり、ハイブリッドクラウド全体にストレージを導入、割り当て、検出することで作業環境を追加できます。



- Cloud Manager と Spot の間の移動が簡単になりました。

Spot の新しい「\* ストレージ運用 \*」セクションでは、Cloud Manager に直接移動できます。作業が完了したら、Cloud Manager の \* Compute \* タブから Spot に戻ることができます。

## Cloud Volumes ONTAP AMI の変更

9.8 リリース以降、Cloud Volumes ONTAP PAYGO AMI は AWS Marketplace では提供されなくなりました。Cloud Manager API を使用して Cloud Volumes ONTAP 従量課金制を導入する場合は、が必要です ["AWS Marketplace で Cloud Manager のサブスクリプションに登録します"](#) 9.8 システムを展開する前に。

## Cloud Backup の機能拡張

- バックアップファイルから個々のファイルを復元できるようになりました。
  - 特定の時点からいくつかのファイルをリストアする必要がある場合は、ボリューム全体をリストアする代わりに、それらのファイルだけをリストアできるようになりました。
  - 同じ作業環境内のボリューム、または同じクラウドアカウントを使用している別の作業環境内のボリュームにファイルをリストアできます。
  - この単一ファイルのリストアオプションでは、環境に導入されている新しいクラウドリストアインスタンスを使用します。 ["この新機能の詳細については、こちらをご覧ください。"](#)
- 新しい Cloud Volumes ONTAP システムを導入する際に、Google Cloud 環境で Cloud Backup を設定できるようになりました。これまでは、既存の Cloud Volumes ONTAP システムでのみクラウドバックアップを設定できました。
- オンプレミスの ONTAP システムから、AWS または Azure に導入された Cloud Volumes ONTAP システムにバックアップしたボリュームをリストアできるようになりました。



## Cloud Compliance の機能拡張

- オンプレミスの ONTAP クラスタからデータを直接スキャンできます

Cloud Manager でオンプレミスクラスタを検出した場合は、それらのボリュームで直接 Compliance スキャンを実行できるようになりました。Compliance スキャンを実行する前に、それらのボリュームを Cloud Volumes ONTAP システムにコピーする必要がなくなりました。

- オンプレミスの場所に Cloud Compliance をインストールできます

オンプレミスの ONTAP クラスタデータをスキャンする場合は、Cloud Compliance をオンプレミスにもインストールできるようになりました。Cloud Manager の UI には引き続き統合されており、クラウドベースのボリューム、バケット、データベースなど、他の作業環境のスキャンにも使用できます。

["前提条件とインストール手順を参照してください"](#)。

- CIFS のデータ保護ボリュームを簡単にスキャンできます

これまでは、NFS DP ボリュームをスキャンすることができました。このリリースでは、CIFS DP ボリュームを Cloud Compliance 内で直接簡単にスキャンできます。["詳細をご確認ください"](#)。

- 新しい「ハイライト」機能では、事前に定義された組み合わせを選択できます [ 調査 ] ページで結果を返すフィルタ

今回のリリースでは、10 のハイライトをご用意しています。たとえば、「HIPAA – Stale data over 30 days」のハイライト表示では、30 日以上前の Health 情報を含むファイルが特定されます。["事前定義されたハイライトの一覧を確認します"](#)。

[ 遵守ダッシュボード ] のタブから [ 高輝度表示 ] を選択するか、[ 調査 ] ページのフィルタとして選択できます。

- Cloud Compliance では、機密性の高い個人データの種類「政治的見解リファレンス」をファイルで見つけることができるようになりました。すべてのリストを表示します ["機密性の高い個人データの種類"](#) その Cloud Compliance がスキャンで見つかりました。
- 「file size」の新しいフィルタは、で使えます のファイルの検索結果を絞り込むための調査ページ一定のサイズです

Cloud Compliance の導入に必要なエンドポイントのリストは、クラウドプロバイダに基づいて改訂されています。["このリストで、AWS、Azure、オンプレミスの要件を確認できます"](#)。

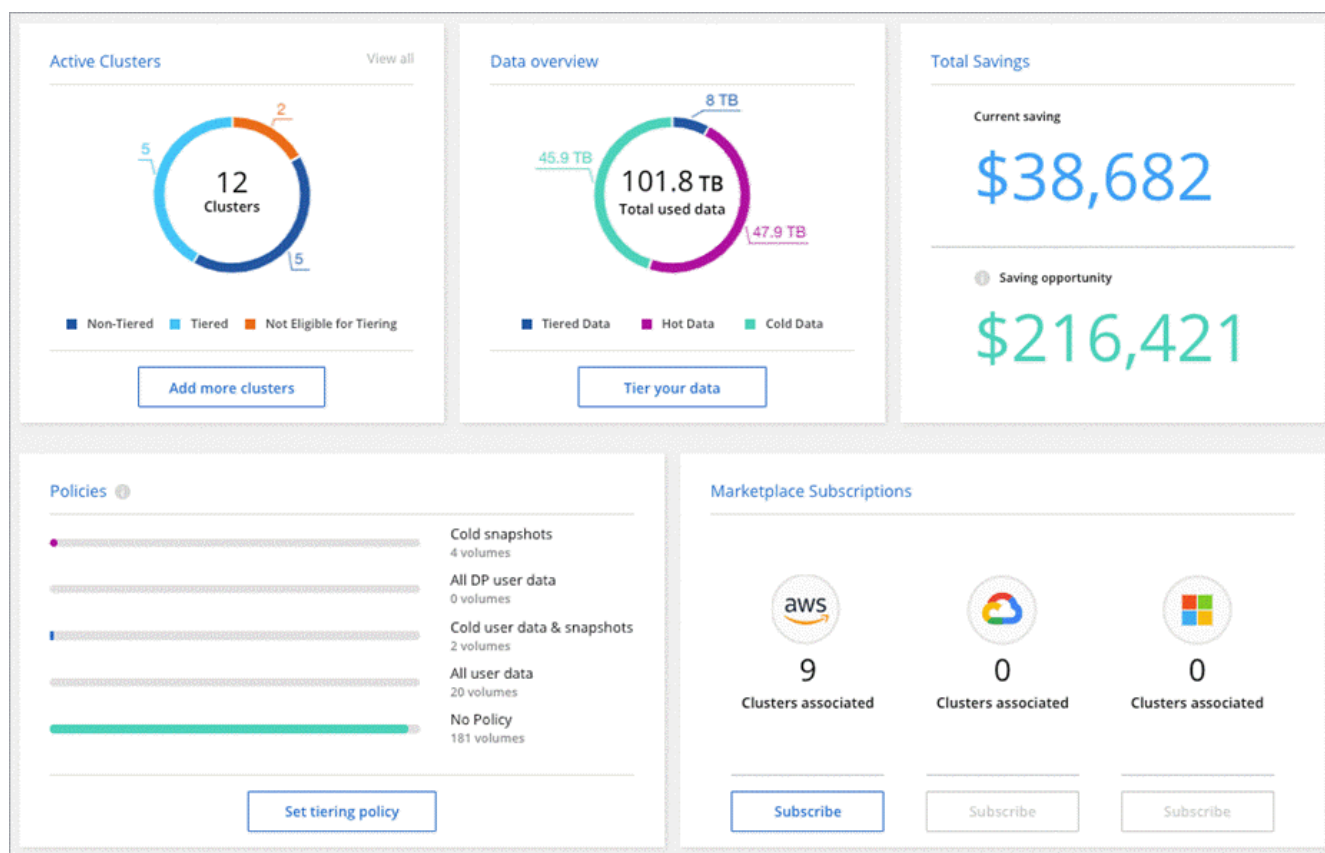
## Cloud Tiering の機能拡張

- 複数のボリュームの階層化ポリシーと最小クーリング日数を同時に変更できるようになりました。

3 Volumes | 2 selected

Modify selected volumes

- Cloud Tiering で、オンプレミスの各クラスタから集約されたデータ階層化のビューを提供できるようになりました。ここでは、環境の概要を明確に示し、適切な操作を実行できるようにします。 ["このページの詳細を確認してください"](#)。



## Cloud Sync の機能拡張

- データブローカーグループを管理できるようになりました。

データブローカーをグループ化すると、同期関係のパフォーマンスを向上させることができます。新しいデータブローカーをグループに追加し、データブローカーの情報を表示するなどして、グループを管理する。

["データブローカーの管理方法について説明します"](#)。

- Cloud Sync で、ONTAP S3 ストレージから ONTAP S3 ストレージへの同期関係がサポートされるようになりました。

["サポートされているソースとターゲットの一覧をすべて表示します。"](#)

## Cloud Manager 3.9 の更新（2020 年 11 月 18 日）

Google Cloud の Cloud Volumes ONTAP で Cloud Backup がサポートされるようになりました。をクリックします ["こちらをご覧ください"](#) を参照してください。

- 注：現在サポートされているのはシングルノードシステムのみです。

## Cloud Volumes ONTAP 9.8 (2020 年 11 月 16 日)

Cloud Volumes ONTAP 9.8 は、AWS、Azure、Google Cloud Platform で利用できます。このリリースでは、がサポートされます ["GCP の HA ペア"](#)。



コネクタに関連付けられている GCP サービスアカウント ["最新の権限が必要です"](#) GCP に HA ペアを導入するには、次の手順を実行します

["Cloud Volumes ONTAP 9.8 の新機能について説明します"](#)。

## Cloud Manager 3.9 の更新 (2020 年 11 月 8 日)

Cloud Manager 3.9 の機能強化をリリースしました。

### Cloud Compliance の機能拡張

- これで、データベースからカスタムの個人データ識別子を作成できるようになりました。これにより、機密性の高いデータが保存されているすべての \* ファイルの場所を完全に把握できます。

「Data Fusion」と呼ばれる機能を使用すると、ファイルをスキャンして、データベースから一意の識別子がこれらのファイルに見つかったかどうかを確認できます。基本的には、クラウドコンプライアンススキャンで識別される「個人データ」のリストを作成します。

["データベースからカスタム個人 ID を作成する方法について説明します"](#)。

- MySQL データベーススキーマのスキャンのサポートが追加されました。

に進みます ["データベーススキーマをスキャンしています"](#) を参照してください。

## Cloud Manager 3.9 (2020 年 11 月 3 日)

- [\[Azure Private Link for Cloud Volumes ONTAP\]](#)
- [\[Active IQ cluster insights\]](#)
- [\[Cloud Tiering enhancements\]](#)

### Azure Private Link for Cloud Volumes ONTAP の略

デフォルトでは、Cloud Manager が Cloud Volumes ONTAP とそれに関連付けられたストレージアカウント間の Azure Private Link 接続を有効にするようになりました。プライベートリンクは、Azure のエンドポイント間の接続を保護します。

- ["Azure プライベートリンクの詳細については、こちらをご覧ください"](#)
- ["Azure プライベートリンクとクラウドの使用の詳細については、こちらをご覧ください Volume ONTAP の略"](#)

### Active IQ クラスタ分析情報

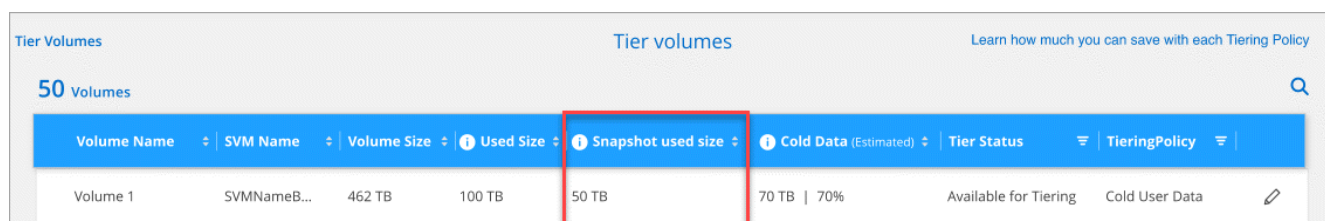
Active IQ のクラスタ分析情報が Cloud Manager で使用できるようになりました。この初期リリースには、次の機能があります。

- ネットアップサポートサイト（NSS）のクレデンシャルに基づいてオンプレミスクラスタのリストが表示されます。
- Cloud Manager で検出されたクラスタと検出されていないクラスタを示します。
- 使用されていない Cloud Volumes ONTAP ライセンスを表示できます。
- 検出された ONTAP クラスタのいずれかでシェルフまたはディスクファームウェアの更新が必要かどうかを示します。

に進みます ["ONTAP クラスタを監視しています"](#) を参照してください。この情報は、から Cloud Manager に提供されます ["Active IQ デジタルアドバイザー"](#)。

## Cloud Tiering の機能拡張

- ボリュームからデータの階層化を設定すると、Cloud Tiering が、各ボリュームの Snapshot の使用サイズを特定できるようになりました。この情報は、クラウドに階層化するデータのタイプを決定する際に役立ちます。



Volume Name	SVM Name	Volume Size	Used Size	Snapshot used size	Cold Data (Estimated)	Tier Status	TieringPolicy
Volume 1	SVMNameB...	462 TB	100 TB	50 TB	70 TB   70%	Available for Tiering	Cold User Data

- ONTAP 9.6 以降を実行しているクラスタでは、Cloud Tiering を使用して、HDD アグリゲートに対する Inactive Data Reporting を有効にできます。

この機能拡張により、Cloud Tiering では、コールドデータの階層化による削減量を簡単に確認できます。

- アグリゲート内のボリュームでデータ階層化を有効にする必要がある場合は、Cloud Tiering に、シックプロビジョニングされたボリュームをシンプロビジョニングされたボリュームに変更するよう求められます。

## Cloud Manager を SaaS に移行

ネットアップは、Cloud Manager のサービスとしてのソフトウェアエクスペリエンスを提供します。この新しいエクスペリエンスにより、Cloud Manager の使用が簡単になり、ハイブリッドクラウドインフラ管理のための追加機能を提供できるようになりました。

### Cloud Manager の従来のエクスペリエンス

Cloud Manager ソフトウェアは、以前はクラウドプロバイダに要求を送信するユーザインターフェイスと管理レイヤで構成されていました。作業を開始するには、Cloud Manager をクラウドネットワークまたはオンプレミスネットワークに導入し、そのインスタンスで実行されるユーザインターフェイスにアクセスします。

その経験は変わりました。

## 新しい **SaaS** エクスペリエンス

NetApp Cloud Central からログインする SaaS ベースのユーザインターフェイスを使用して、Cloud Manager インターフェイスにアクセスできるようになりました。ネットワークで実行されているソフトウェアからユーザインターフェイスにアクセスする必要はなくなりました。

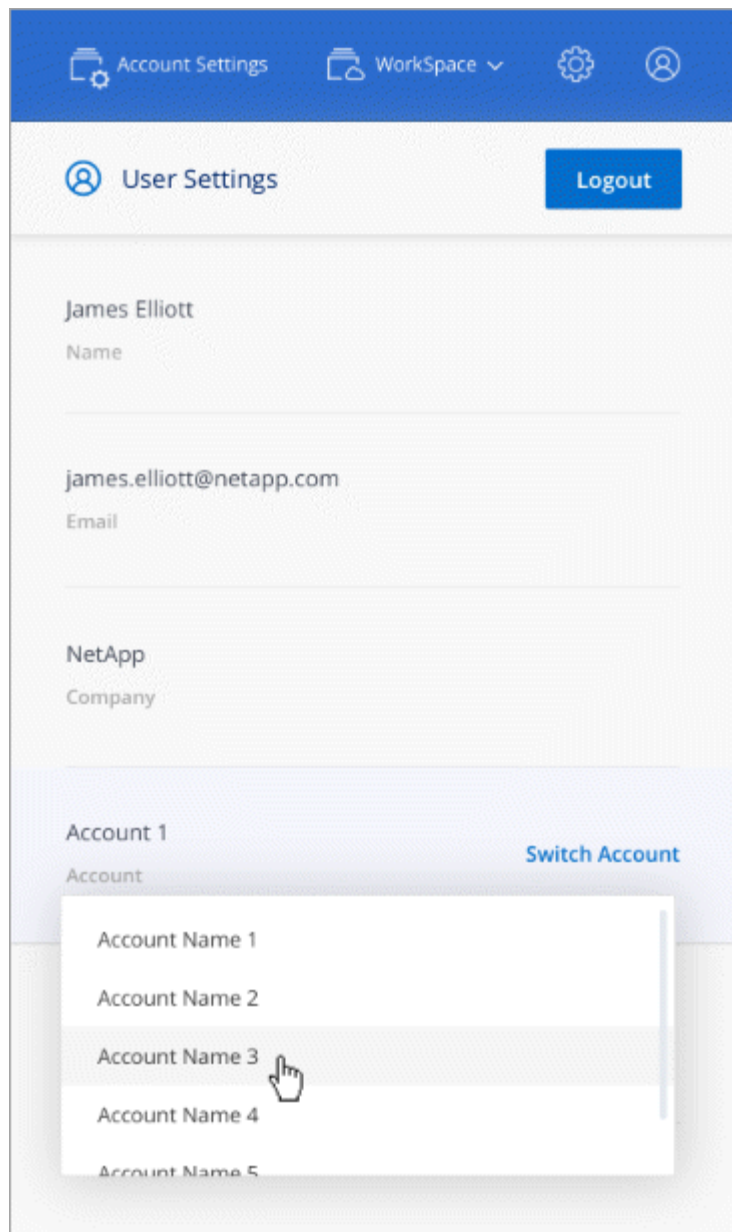
ほとんどの場合、クラウドまたはオンプレミスネットワークに `Connector` を導入する必要があります。Connector は、Cloud Volumes ONTAP やその他のクラウドデータサービスの管理に必要なソフトウェアです。（コネクタは、実際にはインストール済みの既存の Cloud Manager ソフトウェアと同じです）。

## 利点

この SaaS ベースのアプローチには、次のようなメリットがあります。

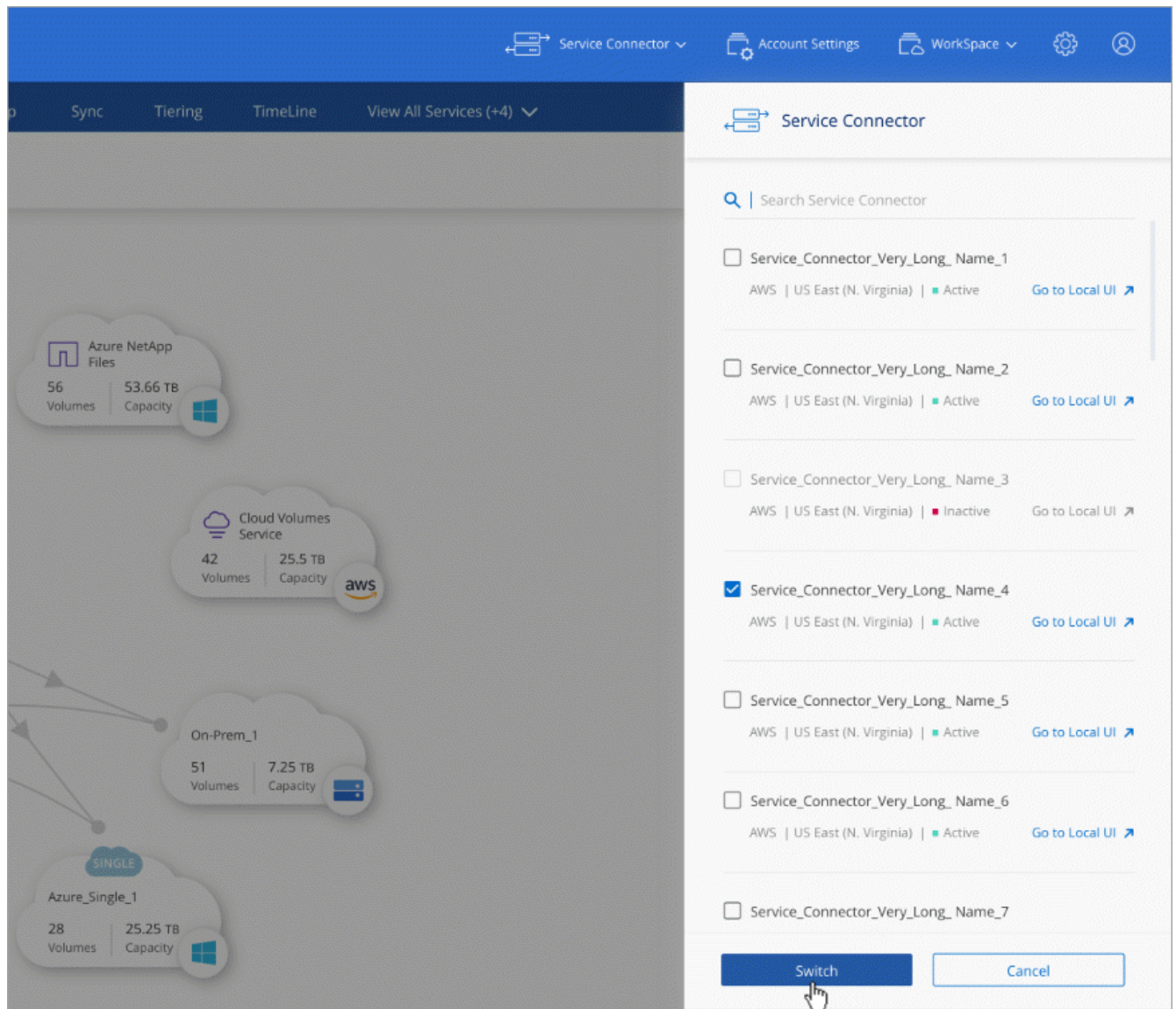
- これにより、お客様の環境にソフトウェアを導入することなく、Azure NetApp Files と Cloud Volumes Service の管理機能を追加できます。
- Cloud Central アカウントを簡単に切り替えることができます。

ユーザが複数の Cloud Central アカウントに関連付けられている場合、User Settings メニューからいつでも別のアカウントに変更できます。そのアカウントに関連付けられているコネクタと作業環境を確認できます。



- 異なるネットワークまたは異なるクラウドプロバイダにインストールされているコネクタ（現時点では Cloud Manager ソフトウェアと同じ）を簡単に切り替えることができます。



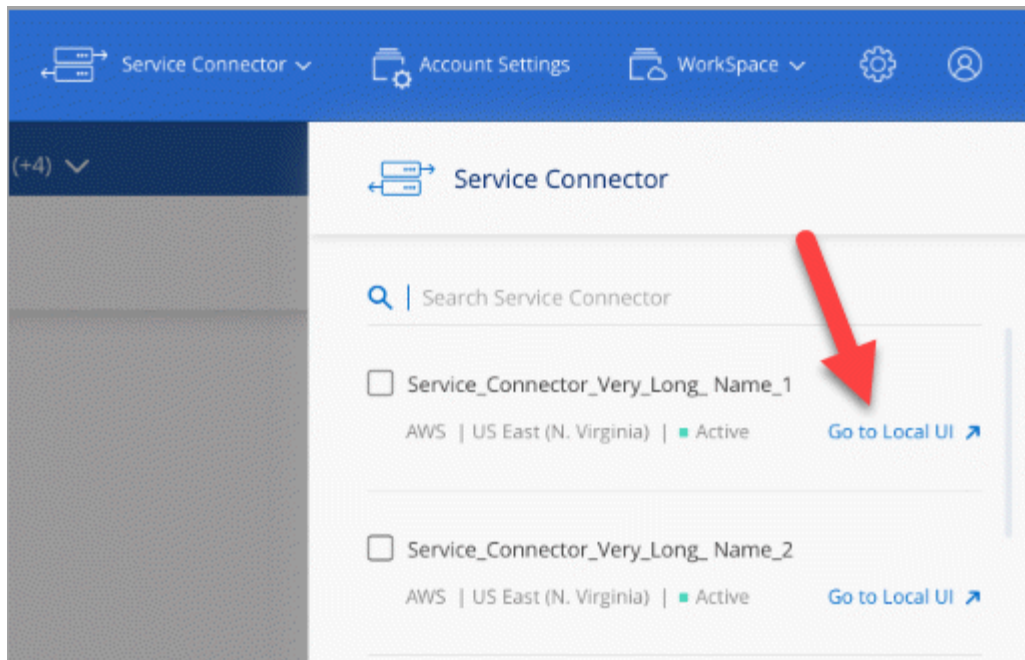


## ローカルユーザインターフェイス

SaaS ユーザインターフェイスからほとんどのタスクを実行する必要がありますが、ローカルユーザインターフェイスは引き続きコネクタで使用できます。このインターフェイスは、コネクタ自体から実行する必要があるいくつかのタスクに必要です。

- プロキシサーバを設定しています
- パッチをインストールしています
- AutoSupport メッセージをダウンロードしています

ローカルユーザインターフェイスには、SaaS ユーザインターフェイスから直接アクセスできます。



## インスタンス、VM、マシンタイプが変更された

Cloud Manager の新機能と今後の機能に対して適切なリソースを利用できるように、最小限必要なインスタンス、VM、マシンのタイプを次のように変更しました。

- AWS : t3.xlarge
- Azure : DS3 v2
- GCP : n1-standard-4

マシンタイプをアップグレードすると、新しい Kubernetes エクスペリエンス、グローバルファイルキャッシュ、監視などの機能にアクセスできます。

サポートされる最小サイズは、これらのデフォルトサイズです **"CPU と RAM の要件に基づきます"**。

Cloud Manager からコネクタのマシンタイプの変更手順が表示されます。

## 既知の問題

既知の問題は、このリリースの製品を正常に使用できない可能性のある問題を特定します。

Cloud Volumes ONTAP の既知の問題については、を参照してください 。 **"Cloud Volumes ONTAP リリースノート"** および ONTAP ソフトウェアについては、を参照してください **"ONTAP リリースノート"**。

### 172 の範囲の IP アドレスと競合する可能性があります

Cloud Manager は、172.17.0.0/16 と 172.18.0.0/16 の範囲に IP アドレスを持つ 2 つのインターフェイスを使用してコネクタを展開します。

これらの範囲のいずれかでネットワークのサブネットが設定されている場合、Cloud Manager から接続エラーが発生することがあります。たとえば、Cloud Manager でオンプレミスの ONTAP クラスタを検出すると



失敗することがあります。

回避策は、コネクタのインターフェイスの IP アドレスを変更します。ネットアップサポートにお問い合わせください。

## 既知の制限

既知の制限事項は、このリリースの製品でサポートされていないプラットフォーム、デバイス、機能、または製品と正しく相互運用できない機能を特定します。これらの制限事項を慎重に確認してください

コネクタは動作したままにしてください

コネクタは常時稼働している必要があります。有効にするサービスの継続的な健全性と運用性にとって重要です。

たとえば、Cloud Volumes ONTAP PAYGO システムの正常性と運用においては、コネクタが重要な要素です。コネクタの電源がオフの場合、Cloud Volumes ONTAP PAYGO システムは、コネクタとの通信を 14 日以上失った後にシャットダウンします。

政府機関では **SaaS** プラットフォームが無効になっています

コネクタを AWS GovCloud リージョン、Azure Government リージョン、または Azure DoD リージョンに導入した場合、Cloud Manager へのアクセスはコネクタのホスト IP アドレスからのみ可能です。SaaS プラットフォームへのアクセスは、アカウント全体で無効になります。

つまり、エンドユーザの内部 VPC / VNet にアクセスできる特権ユーザのみが Cloud Manager の UI または API を使用できます。

また、次のサービスが Cloud Manager から利用できないことも意味します。

- クラウドコンプライアンス
- Kubernetes
- クラウド階層化
- グローバルファイルキャッシュ

これらのサービスを使用するには、SaaS プラットフォームが必要です。



監視サービスは政府機関でサポートされており、利用できます。

**Cloud Manager** では、**Cloud Volumes ONTAP** のダウングレードはサポートされていません

Cloud Manager では、Cloud Volumes ONTAP を以前のバージョンにダウングレードすることはできません。ダウングレードについては、ネットアップテクニカルサポートにお問い合わせください。

## 共有 **Linux** ホストはサポートされません

コネクタは、他のアプリケーションと共有されているホストではサポートされていません。専用のホストである必要があります。

## **Cloud Manager** は **FlexGroup** ボリュームをサポートしていません

Cloud Volumes ONTAP では FlexGroup ボリュームがサポートされますが、Cloud Manager ではサポートされません。System Manager または CLI から FlexGroup ボリュームを作成する場合は、Cloud Manager の容量管理モードを手動に設定する必要があります。FlexGroup ボリュームで自動モードが適切に機能しない可能性があります。

## Copyright Information

Copyright © 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

## Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.